

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：諏訪市こなみ保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもの主体性を尊重し、自信と意欲を持って生きる力を育む、遊ぶ力・考える力・楽しむ力を育み、健康な心と身体を培う、想像力・思考力の芽生えを育み、豊かな感性を培う、健康で質の高い生活を送る基本となる食を営む力の基礎を培う、保護者に対する保育に関する指導を行うとの理念の下に、心も体も健康でたくましい子ども、なんでも意欲的に挑戦できる頑張る子ども、みんな仲良し思いやりのある子どもを目標に、0～5歳までの発達過程に応じた、全体的な計画を立てての保育に努めている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子どもの心身の発達や保護者及び地域の実態を更に深く探り、常に全体的な計画が地域の実情に合っているのかの評価・見直し・改善のサイクル化を期待したい。</p>
			■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。		■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。	
	■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。	■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。				
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>1階は未満児室、三歳児室、調理室、併設された子育て支援センター、2階は年中、年長児室、遊戯室、職員室となっており、各保育室には温度・湿度計、空気清浄機を設置して快適な環境づくりに努めている。</p> <p>早番、遅番の職員が園舎内外の安全点検を行い、点検日誌、安全チェック表に記録している。</p> <p>なお、職員室が2階のため、正面玄関の施錠に不安を感じている保護者の声が上がっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>正面玄関の鍵や外部からの侵入者対策に不安を感じている保護者もおり、園の防犯体制の取り組み等を保護者へ更に周知し、安心・安全に努めている事の周知が期待される。</p>
	■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。	■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。				
	■ 9 内装等には、木材を利用している。	■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。				
	■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。	■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>[取り組み状況] 家庭訪問、個別懇談、送迎時での保護者との対話などから、一人ひとりの発達や家庭の状況を把握して、子どもの気持ちを受け入れ、寄り添う保育に心掛けている。</p> <p>[検討課題] 子どもを尊重する保育のために、人権擁護についての意識を高め、自らの保育の振り返りを目的とするチェックリストの活用などによる自己点検の機会を設けるなど、保育の質の向上への取り組みも期待したい。</p>
					③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>各教室には保育士手作りのキッチンコーナーが設けられ、隠れ家のように区切られている。</p> <p>そして、自由遊びの時間には、毛糸やカップめんの空容器を使ってのお店屋さんごっこ、かるた、コマ回し、お絵かきなど、好きな遊びをしながら友だちや保育士と関わる姿が見られる。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保育所における散歩等の園外活動は、身体づくりと、身近な自然に触れ、地域の人々の生活に触れ、豊かな経験を得る機会といえる。</p> <p>年齢に合わせた時間や距離などを考慮した、お散歩マップの作製も始まっており、クラスごとの散歩計画の作成で、子どもたちの活動の更なる広がり期待したい。</p>
		⑤	乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>0、1歳児は同室での保育となっており、訪問時は月齢が上がり、1歳児のみである。</p> <p>保育室はフローリングとカーペットが引かれ、カーペット部分が午睡のスペースとなっている。</p> <p>手作りのペットボトルでの指を使うおもちゃ、牛乳パック、段ボールを使った滑り台等で遊ぶ姿も見られるなど、手作り玩具は豊富である。</p> <p>また、絵本は子どもの目線、手の届く高さの面立ての本棚が設置されている。</p> <p>なお、園での様子は毎日の連絡帳で保護者に知らせている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>乳児保育での衛生面と感染症の予防を考えた、日ごとの排泄担当、食事・おやつ担当の役割分担を決めるなど、更なる安全への配慮の保育を期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>1歳児は0歳児と同室保育である。</p> <p>2歳児は一人ひとりが安心、安定した中で生活や遊びができるように、保育士が連携を取りながらの保育に努めている。</p> <p>保育士と一緒にパズルをする子ども、絵本を読んでもらう子ども、落ち着いて遊ぶ子どもがいる。</p> <p>毎日、それらの子どもの様子を連絡帳で知らせ、保護者と成長の喜びの共有に努めている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>探索活動やクールダウンが十分に行える環境作り、ボランティアや地域の大人との触れ合いの機会など、活動の広がりや質を意識した取り組みも期待したい。</p>
■	41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。					
■	42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。					
■	43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。	b)	■	44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</p>	
■	45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。					
■	46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。					
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>各年齢の年間保育計画、期計画をたて、園の目標に添った計画としている。また、年齢ごとの食育年間計画では、クラスごとに話し合いで決めた野菜を育てて生長をじっくり観察できる機会も設けている。日々の活動、特に自由遊びにおいては環境設定やゾーン管理が徹底されており、子ども達が自由に、安全に遊ぶことが可能である。それらの活動をホワイトボードで知らせたり、園だよりや親しみやすい名前の付いたクラスだよりでも知らせている。</p> <p>[改善課題]</p> <p>子どもの発達をふまえ、次の活動への期待や意欲が持て、見通しが持て、成長に合わせた継続性を持った各クラスの計画の作成・実施も期待したい。</p>
■	48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。					
■	49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。					
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>配慮の必要な子どもには、サポート保育士と担任が期ごとに個別支援計画を立て、保護者の承諾を得て、関係機関の巡回相談、言語相談、就学相談を行い助言を受けている。また、職員は障がい児保育委員会の研修を受ける機会もある。</p> <p>就園前から支援の必要な子どもは関係機関からの支援を受け、小学校就学以降の継続した支援につなげている。</p> <p>[改善課題]</p> <p>支援の必要な子どもの状況に配慮し、生活を通して他の子どもと共に成長できるように、個別支援計画をクラスの指導計画との関連付けも必要と思われる。</p>
□	52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。					
■	53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。					
■	54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	b)	■	55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</p> <p>57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</p> <p>58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</p>	
■	56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。					
■	57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。					
■	58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。					

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		□	59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	[取り組み状況] 人数のこともあり、長時間保育は未満児、3・5歳児、4歳児にわかれて長時間部屋や二階の遊戯室ですごし、異年齢とのかかわりも設け、一人ひとりの気持ちを大切に好きな活動を保証しながら、リラックスして過ごせるように配慮している。 また、長時間保育士との連携を取りながら保育を行うため、長時間保育日誌を設けての日中保育との継続なども考慮したり、18時以降の捕食の提供もある。 [検討課題] 入園のしおりには長時間保育について大切にしていることとそれらのデイリープログラムにより、どの様に過ごすのか知ることができ、安心である。早朝保育についても同様の対応で、保護者への安心の提供を期待したい。
					60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。	
		⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		□	61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	[取り組み状況] 年長児の午睡は就学に向けて12月に終了し、その時間の過ごし方等が解りやすい言葉で書かれ張られている。就学を意識した機の配置も寺子屋式となり、給食も当番制を取り入れた班ごとの配膳、食べられる量を意識した盛り付け、トンぐやしやもじを使う練習もしている。また、小学校教師が園を訪問したり、幼保小連絡会での連携も図っている。 [検討課題] 子どもも保護者も就学には期待や不安が大きく、小学校との定期的な交流を更に増やし、それらを取り除く取り組みが期待される。日々のおもな流れも活動の順番に書いており、自律を促す時間を加えるなど、主体的に時計を意識できる取り組みも期待したい。
					62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。	
		① 子どもの健康管理を適切に行っている。		□	63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。	[取り組み状況] 入園のしおりでは、健康な園生活をおくるためとして、心身ともに健やかに成長し、園生活を楽しく過ごす事ができるように家庭での注意事項が解りやすく示されおり、乳幼児突然死症候群についても知らせている。 また、担当課、看護師による季節に応じた感染症や怪我等への注意事項も保健だよりをとおして保護者に配布し、周知に努めている。 なお、午睡状況の確認、SIDS予防のための午睡チェックを行いプレスチェック表に記録している。 [検討課題] 午睡チェック表に関しては、0歳児については何分おきの確認としたり、顔色や呼吸の様子等も記録するなど始まり、各職員の安全確保の意識が更に高まることが期待される。
					64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。	
		(3) 健康管理		□	65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	[取り組み状況] 入園のしおりでは、健康な園生活をおくるためとして、心身ともに健やかに成長し、園生活を楽しく過ごす事ができるように家庭での注意事項が解りやすく示されおり、乳幼児突然死症候群についても知らせている。 また、担当課、看護師による季節に応じた感染症や怪我等への注意事項も保健だよりをとおして保護者に配布し、周知に努めている。 なお、午睡状況の確認、SIDS予防のための午睡チェックを行いプレスチェック表に記録している。 [検討課題] 午睡チェック表に関しては、0歳児については何分おきの確認としたり、顔色や呼吸の様子等も記録するなど始まり、各職員の安全確保の意識が更に高まることが期待される。
					66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。	
		① 子どもの健康管理を適切に行っている。		■	67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。	[取り組み状況] 入園のしおりでは、健康な園生活をおくるためとして、心身ともに健やかに成長し、園生活を楽しく過ごす事ができるように家庭での注意事項が解りやすく示されおり、乳幼児突然死症候群についても知らせている。 また、担当課、看護師による季節に応じた感染症や怪我等への注意事項も保健だよりをとおして保護者に配布し、周知に努めている。 なお、午睡状況の確認、SIDS予防のための午睡チェックを行いプレスチェック表に記録している。 [検討課題] 午睡チェック表に関しては、0歳児については何分おきの確認としたり、顔色や呼吸の様子等も記録するなど始まり、各職員の安全確保の意識が更に高まることが期待される。
					68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。	
		① 子どもの健康管理を適切に行っている。		■	69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。	[取り組み状況] 入園のしおりでは、健康な園生活をおくるためとして、心身ともに健やかに成長し、園生活を楽しく過ごす事ができるように家庭での注意事項が解りやすく示されおり、乳幼児突然死症候群についても知らせている。 また、担当課、看護師による季節に応じた感染症や怪我等への注意事項も保健だよりをとおして保護者に配布し、周知に努めている。 なお、午睡状況の確認、SIDS予防のための午睡チェックを行いプレスチェック表に記録している。 [検討課題] 午睡チェック表に関しては、0歳児については何分おきの確認としたり、顔色や呼吸の様子等も記録するなど始まり、各職員の安全確保の意識が更に高まることが期待される。
					70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	
		① 子どもの健康管理を適切に行っている。		■	71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	[取り組み状況] 入園のしおりでは、健康な園生活をおくるためとして、心身ともに健やかに成長し、園生活を楽しく過ごす事ができるように家庭での注意事項が解りやすく示されおり、乳幼児突然死症候群についても知らせている。 また、担当課、看護師による季節に応じた感染症や怪我等への注意事項も保健だよりをとおして保護者に配布し、周知に努めている。 なお、午睡状況の確認、SIDS予防のための午睡チェックを行いプレスチェック表に記録している。 [検討課題] 午睡チェック表に関しては、0歳児については何分おきの確認としたり、顔色や呼吸の様子等も記録するなど始まり、各職員の安全確保の意識が更に高まることが期待される。
					72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えたとともに、事後の確認をしている。	
		① 子どもの健康管理を適切に行っている。		■	73 子どもの保健に関する計画を作成している。	[取り組み状況] 入園のしおりでは、健康な園生活をおくるためとして、心身ともに健やかに成長し、園生活を楽しく過ごす事ができるように家庭での注意事項が解りやすく示されおり、乳幼児突然死症候群についても知らせている。 また、担当課、看護師による季節に応じた感染症や怪我等への注意事項も保健だよりをとおして保護者に配布し、周知に努めている。 なお、午睡状況の確認、SIDS予防のための午睡チェックを行いプレスチェック表に記録している。 [検討課題] 午睡チェック表に関しては、0歳児については何分おきの確認としたり、顔色や呼吸の様子等も記録するなど始まり、各職員の安全確保の意識が更に高まることが期待される。
					74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	
		① 子どもの健康管理を適切に行っている。		■	75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	[取り組み状況] 入園のしおりでは、健康な園生活をおくるためとして、心身ともに健やかに成長し、園生活を楽しく過ごす事ができるように家庭での注意事項が解りやすく示されおり、乳幼児突然死症候群についても知らせている。 また、担当課、看護師による季節に応じた感染症や怪我等への注意事項も保健だよりをとおして保護者に配布し、周知に努めている。 なお、午睡状況の確認、SIDS予防のための午睡チェックを行いプレスチェック表に記録している。 [検討課題] 午睡チェック表に関しては、0歳児については何分おきの確認としたり、顔色や呼吸の様子等も記録するなど始まり、各職員の安全確保の意識が更に高まることが期待される。
					76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。	
		① 子どもの健康管理を適切に行っている。		■	77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。	[取り組み状況] 入園のしおりでは、健康な園生活をおくるためとして、心身ともに健やかに成長し、園生活を楽しく過ごす事ができるように家庭での注意事項が解りやすく示されおり、乳幼児突然死症候群についても知らせている。 また、担当課、看護師による季節に応じた感染症や怪我等への注意事項も保健だよりをとおして保護者に配布し、周知に努めている。 なお、午睡状況の確認、SIDS予防のための午睡チェックを行いプレスチェック表に記録している。 [検討課題] 午睡チェック表に関しては、0歳児については何分おきの確認としたり、顔色や呼吸の様子等も記録するなど始まり、各職員の安全確保の意識が更に高まることが期待される。
					78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		b)	<p>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</p> <p>□ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</p> <p>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</p>	<p>[取り組み状況] 年間計画に沿う年2回の健康診断(内科、歯科、眼科、耳鼻科)と毎月の発育測定の実施により、健康及び発育・発達状態の定期的、継続的な把握に努めている。検診の結果は保護者に知らせ、必要な子どもには受診を促している。</p> <p>[検討課題] 課題のある子どもについては、治療の進み具合の確認や個別指導計画に載せての保育への反映、家庭との連携を進めての健康な体づくりの関心を意識した保育に期待したい。</p>
		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		b)	<p>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</p> <p>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</p> <p>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] 食物アレルギーマニュアルがあり、アレルギー児には保護者との面談の上、除去食の確認を経て、除去食献立表を作成して職員に周知し、個別のトレーやラップの色を変えたり、受け渡しの際にはチェック表を使っての声だし確認を行っている。</p> <p>なお、エピペンの使用方法も看護師から受けている。</p> <p>[検討課題] 該当する子どものアレルゲン、エピペン、投薬の預かりの他、緊急連絡先、主治医を記載した一覧表の作成、職員室での掲示で速やかな対応を可能としたり、業務委託であっても、アレルギー、慢性疾患に関しては調理員を含めての研修の充実や指示は必要であろう。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		b)	<p>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</p> <p>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</p> <p>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</p> <p>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</p> <p>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</p> <p>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</p> <p>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</p> <p>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</p>	<p>[取り組み状況] 食を営む力の基礎を培うために、食への興味・関心を広げるにはどうしたらよいかという食育のテーマから、子ども達が主体的に係るために、クラスごとの食育年間計画の下に、さまざまな食材や旬の食材に触れ、野菜を畑やプランターで育て生長を観察し、包丁を使って野菜を切る、教室では透明の鍋を使ってジャガイモを茹でて見る、育てた野菜を味わう他、調理の体験や年齢に合わせた食に関する絵本を使っての取り組みも行っている。また、発達に合わせたフォークや箸を使う事ができるように、苦手な子どもには持ち方のイラストが置かれている。</p> <p>[検討課題] 保護者に向けて給食だよりや献立表を発行しており、栄養価を記載したり、子どもが食べたがり、保護者も作りやすい「おかあさんやすめ、ハハキトク」的なメニューの弊害なども周知する必要がある。</p> <p>併せて、再開したサンプルケースでの展示で、子どもの必要量や使用している食材の産地表示で、食の大切さの周知・理解をすすめる積極的な取り組みも期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>栄養士によって作成された献立給食が提供され、子どもの日、七夕、クリスマス会等の各行事食の他、季節の旬の野菜、果物、食材を使い季節感があり、また、ワカサギ、のたもち、寒天等の郷土食も取入れた献立となっている。それらは子どもの年齢により、食材の切り方、大きさにも配慮したものである。</p> <p>朝会の際は、前日の給食の反省を栄養士、調理師も含めて行っている。また、栄養士、調理師も各教室に入り配膳の様子を見たり、一緒に食べ、給食を作ってくれる方への感謝の気持ちを育てる取り組みもある。</p> <p>[検討課題]</p> <p>好き嫌いなどの食に問題のある子ども、また、痩せや肥満傾向にある子どもに関して、摂取量などを指導計画に落とし込み、担当保育士への意識を高める仕組みも必等と思われる。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況] 日常の情報交換は、未満児は毎日、以上児は必要に応じて連絡帳にて行われている。その日の活動は、ホワイトボードで知らせ、園日より、クラスよりで知らせている。</p> <p>[検討課題] 保護者の知りたい情報は、日中活動の中で子どもがどの様に成長したかであり、何をしたかというだけでなく、どの様であったかも知らせるなど、連絡帳の内容についての標準化も必要と思われる。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者とは、日々の送迎時、参観日、クラス懇談、個別懇談時に話しをする機会を持ち、保護者からの相談には応じられる体制は整えられている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者が気軽に相談ができる体制の充実と、保護者や子どもの現状や相談内容と支援の状況を記録するなど、保育内容が更に充実して保育士のスキルの向上が見込める園全体での共有に期待したい。また、相談等については、どんな些細な事でも期日、内容など、記録として残しておくことも必要であろう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>朝の顔合わせでの観察と、日頃の子どもの状態との比較から異変がないか見ている。</p> <p>マニュアルは整備され体制は整っているが、全職員の理解、共有には不足を感じる。</p> <p>また、園に来られなくなっている、要保護児童の家庭には訪問して様子を見て、要保護児童対策地域協議会との連携もある。</p> <p>[検討課題]</p> <p>マニュアル等での研修と家庭での虐待、園内での虐待の事例をもとに、理解と専門性を深める更なる取り組みに期待したい。</p>
3	保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保育計画に基づいた、月案、週案において実践された保育について、担当保育者は振り返り、評価を行い、それを主任が確認し、職員会や実践研修会で話し合い、次の保育に活かしている。</p> <p>また、保育士自身は、個人の目標設定カードにより、半年ごとに振り返りを行っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保育士の振り返り、月案・週案の振り返りを職員間で話し合い共有することで、その振り返りが保育の改善や質の向上、更には各職員の資質向上につながることを意識した内容へと取り組みの向上が期待される。</p>